

第1回徳島市民病院経営健全化推進会議議事録

日時 令和8年2月19日(木) 15:00~16:45

場所 徳島市民病院医局カンファレンスルーム

出席者 17人(委員10人、事務局ほか)

傍聴人 1人

- 1 開会
- 2 委員の紹介
- 3 会長・副会長の選任
- 4 会長就任あいさつ
- 5 病院事業管理者あいさつ
- 6 議事

(1) 令和6年度の徳島市民病院経営強化プランの実施状況について	
委員	「I. 地域における役割と機能を果たすために 1. 地域医療連携機能等の充実 2. 地域包括ケアシステムへの構築に向けた役割・機能」を説明
委員	・「2. 地域包括ケアシステムへの構築に向けた役割・機能 (2) ICTを活用した医療連携ネットワーク化の推進」について、阿波あいネットの活用状況や、電子処方箋の進展はどうか。
委員	・阿波あいネットに関しては、使用できる端末が3台と少ないため、職員が十分に活用できているとはいえない状況である。電子処方箋に関しても、使用率は少なくまだ十分に活用されていない。
事務局	・令和6年度の電子処方箋の使用件数は、多い月で15件、少ない月で10件程である。令和7年度より健康保険証が廃止され、マイナ保険証に移行したことにより当院のマイナ保険証の使用率は43%となっている。これに伴い、電子処方箋を選択する患者が増加している。
委員	・令和8年度の診療報酬改定にて、電子処方箋の使用によって加算される項目が増設されると思われるため、今後も電子処方箋については特に注目すべきである。
委員	・「1. 地域医療連携機能等の充実 (4) 徳島大学病院との連携強化」に

	<p>ついて、徳島大学病院医師とは診療において役割分担などの相談を行っているのか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 徳島大学病院とは密に連絡を取っており、当院の医師では施術が難しい場合は徳島大学病院に応援を要請するなど、連携を行っている。
委員	<p>「Ⅰ. 地域における役割と機能を果たすために 3. 政策医療の取組強化」を説明</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 徳島市民病院に搬送されたことで適切な治療を受けることができたという話を多く聞いている。無痛分娩などの特色ある医師・治療の提供は徳島市に非常に良いアナウンスとなっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「3. 政策医療の取組強化 (3) がん医療への取り組み～がんセンターの機能充実」について、様々な病院が手術支援ロボットの導入を開始しているが、診療には不可欠であるのに対し支援ロボットを使用する手術の採算性が厳しいというジレンマで苦悩をしている。貴院における手術支援ロボットの採算性はどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 導入当初は経営においては厳しい状況であったが、手術支援ロボットを導入することにより医師の意欲向上や若い医師に選ばれる病院となることで、当院全体の採算を増加させる見込みである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 経営の指数上では採算は難しいと思われるが、医師の意欲向上を強く主張してロボット手術に取り組んでいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 泌尿器科、外科、産婦人科が手術支援ロボットを使用しており、泌尿器科では概ね採算が取れているが、外科では導入の進行途中であるため十分ではない状況であり、産婦人科では良性疾患の手術に内視鏡と併用した治療を行っている。
委員	<p>「Ⅰ. 地域における役割と機能を果たすために 4. 社会のニーズに応える高度な専門医療等の充実 5. 市民の健康と安全のために」を説明</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 貴院の関節手術は非常に心強い特色である。徳島県内で大腿骨頸部骨折となった高齢の患者を発症から 48 時間以内に対応するために、各病院で救急搬送や手術を分担できるようネットワークが構築された

委員	<p>が、これにより貴院の手術件数が増加するなどの変化はあったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院においては事前に予定されている手術が多く、救急搬送された患者であっても手術室や麻酔科の状況により対応できない場合がある。しかし、大腿骨頸部骨折の患者においても 48 時間以内の対応を目標にしており、48 時間が経過しても手術を行えるように受入態勢を整備しているため、今後も積極的な受入を行いたい。
委員	<p>「Ⅱ. 次世代を担う医療人を育てるために</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門資格を有する人材の確保及び育成 2. 臨床研修病院としての機能充実」を説明
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・初期研修医のフルマッチが継続しているのは素晴らしいことである。貴院において、臨床工学技士の必要性はどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の確保が難しく人員が少ない現状においては、手術の介助を臨床工学技士に任せるなどの取り組みを検討している。当院は現在 6 人の臨床工学技士が勤務しており、増員を検討しているが経営状況を踏まえると難しい課題である。
委員	<p>「Ⅲ. 安心・安全な医療のために</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者支援体制の強化 2. 職員の満足度向上と働きがいのある職場づくり 3. 安全管理の徹底 4. 働き方改革への適切な対応」を説明
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「1. 患者支援体制の強化 (2) 職員満足度の向上」について、患者に対してアンケートを実施しているが、回答に貴院のサービス向上や改善に関連するような具体的な意見はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・入院給食の意見に関しては以前より大幅に改善し、患者満足度調査においては全国平均を上回る実績となった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・当院の給食アンケートでは以前から魚関係のご指摘が多かったため、給食の委託業者と相談し冷凍から生の魚を使用するなどの改善を行った結果、近年では魚がおいしいという意見にシフトした実績がある。また、看護師や事務職員などの対応が不十分であるとのことのご指摘に関しては、担当した職員と直接対話し、当時の状況や対応方法を精査して

委員	<p>正していくように取り組んでいる。現在は電話が繋がりにくいというご意見が多いため、電話の通信安定化の方法や医療機関同士での急を要する対応の対処などを幹部職員が検討して改善に繋げている。</p> <p>「IV. 健全な経営のために</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安定的な病院収入の確保 2. 経費の効率的な執行 3. 財務体制の強化 4. 経営安定化に向けた基盤整備」を説明
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「1. 安定的な病院収入の確保 (2) 外来診療」における再診患者について、現在の再診患者数と外来患者数全体に対する再診患者数の割合はどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・当院の外来診療においては初診患者を多く受け入れ、再診患者は地域のかかりつけ医に任せることで役割分担を行っている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・初診患者数は1日平均で約46人、月の外来延べ患者数が約8,800人で、1日平均約440人程度あるため、再診患者は全体の9割を占めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他院は再診患者が多数来院し駐車場が混雑することが多いが、貴院についてはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・当院においても、患者を多く受け持つ医師が診察に入る曜日によって混雑するため、医師の日程調整を行うことで曜日ごとの患者数の平準化を図っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の各項目は持続可能な医療を継続するためにそれぞれ設定をされているが、全体的に達成したと認識してもよいのか。自己評価では目標を上回る実績か目標通りの実績のみであるが、評価の達成基準について明確な基準や、目標値に達成していない項目の今後の具体的な取り組みや赤字決算となったことについてはどうか。また、徳島県の地域医療構想に対して、経営強化プランの項目の取り組みが構想に合致しているか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値に対して達成率を計算して評価をしているわけではなく、また当院の実績は上昇傾向にあると判断しているため、目標を下回る実績

事務局	<p>は極端に低い実績であると考慮した上で自己評価を行っている。令和6年度は赤字決算であったが、前年度と比較して医業収益は約5億円の増収を行っており、これを上回る人件費や物価高騰により約7億円の損失となったことで7年ぶりの赤字決算となった。医業収益を診療報酬に依存している現状では増幅する費用を賄いきれず、全国の公立病院の9割が赤字決算となっている中で、30億を超える赤字決算となった他院と比較すると当院は約2億5百万円の赤字であり、医業収益の増収により抑制できたものと考えている。しかし、赤字決算となったことに対しては真摯に受け止めるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員数は目標値に達成していないため下回る実績にすべきであったと考える。しかし、特に医師に関しては必要数に対して医師の総数が減少しており、徳島大学病院の医局と連携しているがあまり増員できない状況である。赤字決算に関しても、公立病院であるため人件費削減ができず、また診療報酬による収入のため診療費の上乗せなどが行えず当院で行える対策は限られている。診療においては、7～8年前は外来患者数よりも入院患者数を増加させる方針であったが、現在は入院外来ともに重要な収益源となっているため、外来患者数の増加に努めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 研究研修費が減少しているが、医師の育成に行う研修が有益であるのであれば更に予算を増加し実施をしてもよいのではないかと。また、貴院は地域に必要な医療機関であるため赤字決算にとらわれずに、診療報酬の改定などで医療が大きく変動する環境下として自己評価の目標値が適切であるかを見直し、現在の目標よりも高い数値を目指していくべきではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も赤字予算であり、救急や小児科医療などの不採算医療は診療を行うほど赤字となるが、地域に求められる医療として継続すべきであるため、職員や他院との連携を取り黒字決算を目標に取り組むべきであると考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 経営強化プランとは、総務省が地方公営企業に経営強化のプラン策定を推進したことによって徳島市民病院でも策定されたものである。病院事業は有機的に様々な事業が関係しており、2年に1回の診療報酬改定も内容が後追いの改定であるため、これを超える人件費の増加や物価高騰により今般の病院経営においては厳しい環境にあるが、徳島市の財政としては繰入金を出すなどの対応を行っている。病院経営に

事務局	<p>おいては国の補助が不可欠であるため、徳島市は総務省に、公営病院は厚生労働省に様々な要望を出しつつ経営の安定を目指していくべきである。貴院におけるD P Cの現在の体制はどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ D P Cは診療報酬に直接的に影響する指数であり、当院もD P C係数を増加させるよう努めている。現在の体制については、職員1名が専属として担当しており、現在は契約が終了しているが2つの委託契約を行いコンサルティングや実働のD P Cを上げる支援を委託している。ベットコントロールコーディネーターというベッドの空床を調整して病床を管理する担当職員がD P C担当職員と連携することでD P Cと病床管理を徹底している。医事の診療費の計算等を委託している会社にもD P C担当者がいるため、D P Cの係数に係る加算の取りこぼしがないようにD P Cの分別を適切に行うことでD P Cの算定率を増加するように努めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ D P Cを管理できる職員の増員を目指していただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的にはD P C担当職員の内製化を目指しており、現在は内製化の過程途中である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ D P Cとは、厚生労働省が定めた1日あたりの定額で計算する制度である。診療を行うほど収益を得る出来高算定病院とは違い、各診療に1日ごとに定額が定められている包括算定病院は診療体制や取り組みによって係数が算定され収入に加算されるため、当院においても在院日数の調整や様々な疾患の診療を行い、医業収益の増収に努めている。

7 閉会

以 上